



「大阪大学出版会」情報！

1. 「学術書」の書籍化をお手伝いします！

現在、「平成28年度大阪大学教員出版支援制度」の募集を行っています。部局から申請のあった出版企画のうち、若手部門5点、一般部門5点について学術書として出版するもので、既刊書には学会賞を受賞した書籍もあります。とくに若手部門については、大阪大学未来基金のご支援も得ています。部局からの申請の締め切りは8月末です。意欲的な学術書出版企画をお待ちしています。

また、科研費の研究成果公開促進費「学術図書」の申請による出版もお勧めしています。学術書出版助成を得るための数少ない機会の一つですのでぜひご相談ください。

2. 「教科書」が今注目です！

2014年4月に刊行した『市民のための世界史』が好評です。従来の世界史教育を見直し、日本史とアジア史をつなげた理解、西洋中心でないトータルな世界史、あるいは過去から現代へのつながりや大きな流れが俯瞰的に理解できるよう、新しい世界史教科書として編み直されたもので、大学生のみならず一般読者の興味や学習意欲も惹き起こしています。

ほかにも学生にかかわらず読まれている教科書として、「世界の言語シリーズ」を現在までに10巻刊行しており、今春『ポルトガル語』『スウェーデン語』を刊行。既刊の多くが重版となっており、外国語学部レベルの重厚な教科書の需要の高さがうかがわれます。



面白い試みとして、ジュンク堂書店で大阪大学の学生が教科書として使っている書籍を販売する企画「教科書は最高の教養書フェア」を行ったところ、大きな関心を受けました。大阪大学が行う教育への高い関心も実感することができ、本を通して大学と社会との新たな接点を提供することができました。



3. 「教養書」が大人気！

大阪大学の研究成果をわかりやすく伝える教養書シリーズとして2007年に創刊された「阪大リーブル」も50巻を数えました。新刊『隕石でわかる宇宙惑星科学』は現役の東京藝術大学生でもある大阪大学名誉教授による著作で、軽妙な文章と著者本人によるユニークなイラストで人気を博し、たちまち重版となっています。



『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』ではユニークな取り組みを幅広い読者にアピールしましたが、さらにコミック『証明の探究 高校編!』では、大学レベルの講義内容をコミックという手法で解説することにより高校生との橋渡しとなりました。

以上、大阪大学出版会の最近の出版活動からいくつかピックアップしました。様々なご提案、ご相談を重ねながら、大阪大学と社会をつなぎ、世代を越えて読み継がれていく本づくりをするため活動しておりますので、お気軽に声をおかけください。

お問い合わせ先：大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7

大阪大学ウエストフロント

TEL：06-6877-1614（営業） 06-6877-5405（編集）

<http://www.osaka-up.or.jp/>

海外拠点 「阪大が持つ海外拠点や海外とのつながりを体感」



未来戦略機構 特任准教授

細田 一史

2016年3月21日から27日にかけて、阪大の大学院生20人がアメリカのベイエリア（サンフランシスコ・シリコンバレー等）へと研修に行きました。その研修の成果は非常に大きかったのですが、ここでお伝えしたいことは、この研修を可能にした阪大が持つ海外拠点や海外とのつながりの素晴らしさです。

ベイエリアにはApple、Google、Intelなど世界の名だたるIT企業、勢いのあるベンチャー企業、カリフォルニア大学やスタンフォード大学など世界最高峰の大学があり、今アメリカで最も家賃が高く、世界で最もホットな地域の一つです。私達ヒューマンウェアプログラムは情報科学・生命機能・基礎工学研究科によって、イノベーションリーダーを育成するために設立されており、その学生たちにとってこのベイエリアから学ぶこと、そしてこのエリアの活用方法は数え切れません。この研修では、こういった大企業、ベンチャー企業、上記2大学等に訪問しました。

そんなベイエリアに（だからこそ）大阪大学北米センターがあり、私達はその恩恵を思いきり受けました。これまでに北米センターは「学生主体活動」に重きを置いた人材育成として、海外研修を主軸とした「新威臨丸プロジェクト」を運営してきました。この趣旨はヒューマンウェアおよび研修目的に合致していたため、北米センター長の樺澤 哲教授にプランニングと現地サポートを、また前センター長の久保井亮一名誉教授に日本からの引率を依頼したところ、ご快諾いただきました。具体的には、ベイエリアで活躍する日本人起業家への協力依頼、留学生のビザ手配の受け入れ、学生自主企画のアイデアや起業家達がBarなどに集まるMeetupを取り入れる現地ならではのアイデアの提案など、非常にスムーズに魅力的な研修が組みあがっていきました。現地でも、企業訪問やUCバークレーとの合同イベントをサポートいただくとともに、アットホームに北米センターに迎え入れていただき、アメリカそしてベイエリアを身近に感じました。研修の結果として、学生全員が非常に多くを学んだと強い自覚があり、大成功に終わりました。

さらに北米センターは、大阪大学北米同窓会などの人的ネットワークを築いており、今回の研修では懇親会を開いていただきました。その面々をみて、私達は驚きを隠せませんでした。シリコンバレーの企業や日本の大企業のアメ利カ支部、現地大学などのアカデミア関連、JSPSやJETROおよび領事館といった行政機関など、まさに産学官にて活躍する方々が一堂に集まり、温かく迎えていただきました。その場でのお話の素晴らしさはもちろんのこと、このつながりにより次の日の学生自主企画に領事館や企業へ訪問させていただく学生もあり、貴重な経験を得ることができました。今後もこのつながりが明るい未来へ発展するのではとわくわくします。

以上のように北米センターに非常にお世話になりました。さらに北米センターのご尽力により、カリフォルニア大学のオフィスが阪大にあり、研修前に紹介していただきました。今回サポートいただいた全ての方々に、一同この場をかりてお礼を申し上げます。阪大にはこのように素晴らしい海外拠点があり、すぐにでも世界に羽ばたける恵まれた環境であることをひしひしと体感しました。阪大みんなでどんどん利用して世界で活躍できれば最高です！



北米センターのオフィスにお邪魔しました



大阪大学北米関連の皆様との懇親会にて

profile

細田 一史：ほそだ かずふみ

2002年大阪大学工学部卒業、2005年大阪大学情報科学研究科修了（情報修士）、2008年大阪大学生命機能研究科修了（工学博士）、2008～2013年大阪大学情報科学研究科特任助教、2013年～現在 大阪大学未来戦略機構ヒューマンウェアイノベーションプログラム特任准教授。生態系、細胞、生化学反応などの生命ダイナミクスに関する研究を専門とし、情報・生命・認知の融合領域において教育研究に従事。